

製造印

藤川 九しのに二千五百両はいんといしお  
 ます。最初のあ結末は二千両。しかし途中で  
 不足しましたたので最初に三百両、その次に二  
 百両……たつた二度の増金で、へえ……  
 光子 たつてもうそれだけたかさんずや  
 赤いの。結末の金より五百円も餘命に上げたんたもの。  
 藤川 五百円もどつて、へ、へ……同去せん今  
 度の五百両たつて何れこれからの仕事に使ふ金  
 ちやありませんよ。今度の五百両はこれまで  
 のにかいつた金の支拂ひに使ふんやすよ。  
 (おどろき) 家か  
 光子 たつた、山あ上りまでには何れたけお  
 金に上げればいいの。  
 藤川 さあ、まあ千両しか、りますかあ。う  
 えふくやうに  
 光子 えんあことこの……えんあ乱暴あことこの……  
 藤川 たつて、お金にたいにかあのことには  
 お家はあ上りませんよ。  
 光子 どの最初の二千円が立派な家を建て  
 上げます。見妹二人の縁恩返しとあれは  
 び堅く売ら印つたのはあいの。

MARUZEN I

